

東京都認知症支援拠点モデル事業の実施状況

グループホームなごみ方南（認知症対応型共同生活介護）

杉並区・(株)大起エンゼルヘルプ

1 取り組み内容

①会食会（多楽福会）の開催

<概要>

当グループホームのリビングを活用して、施設近隣の1人暮らしの高齢者や認知症高齢者の家族等と、グループホームの入居者が交流できる会食会を実施。

会食会の開催に伴い、会食会の参加者や調理補助のボランティア等を対象として、保健師や地域包括支援センター職員等の専門職による相談受付や講習会も実施。

<目的>

地域の中でつながりを深めていくことでお互いを知り、理解を深める機会を提供する。

また、認知症になっても地域の中で自分らしく生活を営むことができるという事例をじかに見ることや、専門スタッフがどのように入居者に接しているかを知ることによって、一般参加者の不安の軽減につなげる。

<その他>

事業の実施状況や会食会に際して受け付けた相談事例を、地域包括支援センター主催の地域ケア会議で報告し、情報提供を行った。

②地域交流（手作りプランターの設置）の実施

<概要>

グループホーム入居者、施設利用者、職員、地域住民の相互協力により、施設への人の外出ルートや地域住民の利用されている道、場所へ手作りのプランターを設置し、地域と施設を同じプランターの花でつなぐ活動。

<目的>

花の世話を、施設の職員や地域住民が定期的に行うことや、作成したプランターを近隣に配布すること等で、地域とのなじみの関係を形成する。

<その他>

本事業の実施にあたっては、施設の設計^{※1}の段階から関わっていただいている、横浜国立大学建築学部の大原教授の指導の下、同研究室の学生が中心となり、地域から施設への人の流れを生み出す「まちづくりワークショップ^{※2}」という形で取り組んだ。

^{※1} 大原教授の指導により、当施設は地域の人が通り抜けできるよう施設内に道をつくっている。

^{※2} 施設づくりやまちづくりに対して意見を言うのではなく、住民や施設利用者・職員自身と一緒に考えて、手を動かし、その提案や意見を汲み取りながら、可能な範囲で施設づくりやまちづくりの実現を目指す手法

2 実施経緯

①会食会（多楽福会）の開催

平成19年10月より、杉並区介護保険課事業者支援係と協働し食事会「多楽福会」を開催した。事業運営を行うために、担当地域の杉並区地域包括支援センターケア24方南に協力を要請し連携しての開催となった。19年度は、地域住民、区のアんしん協力員、民生委員等に参加を呼びかけ、グループホーム入居者、職員と一緒に毎月1回食事会を行った。食事会の献立、栄養管理指導を区保健センター管理栄養士に依頼した。

食事会の後に、区の栄養士、保健師、歯科衛生士により参加者に対し、ミニ講習会を開いた。しかし、実際の現場で、入居者と参加者の間にはいり交流の橋渡しをすべき職員が調理をすることで一杯になり本来の目的が果たせなかった。

20年度は、19年度の反省を生かし、職員と一緒に食事会を運営する多楽福会サポーターを、地域包括支援センターと協働で地域住民、あんしん協力員、民生委員の中から登録、養成を行い自主ボランティアグループを立ち上げた。サポーター登録のために、杉並区と連携し全部で4回の研修を行った。「認知症の理解」「食品衛生について」「栄養管理について」「口腔衛生について」の内容について区の専門職に要請した。現在15名の登録者がおり、食事会だけではなく、地域の行事への参加に協力してもらったりと活動している。また、サポーターの協力のもと、入居者と一緒にバスハイクで、一日旅行をすることができた。



②地域交流（手作りプランターの設置）の実施

19年度は、11月11日に実施。

事前準備として、近隣の店舗や施設等から材料となるペットボトルを収集し、半分は切断。さらに近所の保育園、幼稚園の園児に色付けしてもらい合計200個を用意した。

当日は、地域住民の方をはじめ、入居者、職員、学生等総勢62人に参加していただき、プランターを麻ひもで結わえ、土を盛る作業を行った。完成したプランターは、職員が近所へ配布した。

しかし、この試みは、なごみ方南の職員と学生が中心となってしまっていたため、20年度は、その反省を生かし、いかに地域と一緒に取り組むかを事前に話し合った。そして、花を買うだけだった地域の商店街の花屋と協賛し、花屋という立場から専門的な意見をもらい、プランターを作成した。また、保育園へは、記念碑のような看板の作成を依頼し、なごみ方南へ来たときに、自分達の作った看板が見られるような形にした。

なごみ方南の取り組み、大学生の考え、花屋のアイデアがうまくまとまり、なごみ方南を拠点とした地域への発信を、花を媒体として行うことができた。



取り組み過程における地域住民との交流

<p style="text-align: center;">会食会（多楽福会）及び 多楽福会サポーター研修会</p>	へ地域住民、 参加呼びかけ 関係機関	<p style="text-align: center;">地域交流 (手作りプランターの設置)</p>
<p>○地域包括支援センター（ケア24方南）と保健センターにより地域住民へ会食会への参加を呼びかけ（1回20名程度）</p>		<p>○地域コーディネーター※と横浜国立大学の学生が協働し、地域住民へ参加呼びかけ</p>
<p>○ケア24が、サポーター（調理補助ボランティア）に成り得る人をターゲットに参加を呼びかけ（年間を通して15名程度・20年度のみ）</p>		<p>○近隣の店舗・施設等から材料のペットボトルを収集</p>
<p>○杉並区に専門職の講師派遣を依頼</p>	事前準備	<p>○近所の幼稚園・保育園に依頼し、園児達がプランターを色付け</p>
<p>○施設側で決めたメニューについて、区の栄養士に監修を依頼</p>		<p>○多楽福参加者、多楽福会サポーターも、地域の人と一緒にプランター作りをして施設と町のなじみの関係を形成</p>
<p>○サポーターは調理補助、職員は入居者と参加者の橋渡し、という形で役割分担</p>		<p>○プランターを作成した人たちにより、地域の方々へプランターを配布</p>
<p>○四半期に1回、専門職による、サポーターと職員への研修会を開催</p>	実施	<p>○方南町駅から施設まで同じプランターが並んでおり、町とつながる。</p>
<p>○認知症への理解促進のため、参加者が地域の身近な施設や入居者・利用者の日々の生活を実際に見聞</p>		
<p>○区の専門職により、会食会後に専門相談や講習を実施</p>		
<p>○実施にあたり、杉並区介護保険課事業者支援係と協働</p>		
<p>○ケア24による地域ケア会議にて、取り組み状況の報告</p>		

地域住民と施設のなじみの関係の形成
地域から施設への人の流れを創出

※地域コーディネーターの役割

- 区・地域包括支援センターの関係機関と連携し、モデル事業の実施に向けた事前調整
- 当日の進行管理
- 取組み実施にあたっての地域住民との窓口

→なごみ方南のユニットリーダー（管理者）が兼務

3 21年度の事業継続について

20年度終了後、多楽福会サポーターに対し多楽福会に関するアンケートを行った結果、半数がこのまま継続したいという意見であった。(15名に配布し、8名が回答。)

1 「多楽福会」の運営の仕方はいかがですか？

大変良い・・・5名 まあまあ良い・・・3名

- ・ 皆様との交流が楽しい。
- ・ 見知らぬ人とのコミュニケーションも接触も刺激になって良い事と思います。
- ・ もっと地域に宣伝し、大勢の高齢者が集うサロン形式になると良い。

2 「多楽福会」の食事作りのやり方はいかがですか？

大変良い・・・2名 まあまあ良い・・・2名 ふつう・・・4名

- ・ 皆でお話しながら楽しく参加している。
- ・ 協力し合って作る、出来上がった喜び、皆笑顔で頂いている利用者さんたちの刺激になってよいと思います。
- ・ 今のやり方で良いと思いますが、食事後の後片付けは、入居者も出来る人は手伝って欲しい。
- ・ お互いに助け合ってやれば良いと思います。
- ・ 家庭の味が良く出ています。今は核家族が多いので自分が6人家族でしたのでよく分かる。

3 サポーターとしてのやりがいがありますか？

ある・・・3人 まあまあある・・・1名 ふつう・・・4名

- ・ 参加を楽しみにしています。
- ・ つい手を出しすぎかなと思うことも。時間があうときは今後もお手伝いしたい。
- ・ 現在は月1回ですが、2回ぐらいあってもいいのでは。
- ・ 今のままでいいと思います。
- ・ 私は、十分手を使えませんが、良い勉強になります。

4 平成21年度のモデル事業について

このままでよい・・・8名

- ・あまり多く求めなくてよいと思う。現状のままでよいと思う。
- ・あれこれひろげてみても大変なのでは。

5 良いアイデアがございましたらお聞かせください。

- ・若い人たちが、一生懸命頑張っておられうれしく思います。
- ・ケア24の職員が親切で細かな気遣いをし、グループホームの職員も若いのに優しく接してくださるので、時間の許す限り協力したいと思っています。
- ・今のままで良いと思います。

このアンケートの結果をもとに、21年度も継続して、サポーターとの交流を定期的に行っていきます。まだ、スケジュールなどは決まっていないが、年間計画を立てて取り組んでいく予定です。

4 最後に

モデル事業を通して、施設の場所、そして、グループホーム、認知症と少しずつ理解されてきているように感じている。ただ、グループホーム単独では、こんなにも早く馴染みの関係を築くことは難しかった。この事業に関して協力頂いた杉並区、特に地域包括支援センターには、地域住民、区の安心協力員、民生委員、認知症家族の会に積極的に参加を呼びかけてくれたことで、スムーズによりよい地域住民との関係ができたと感じている。参加者も、いつも相談していて信頼できる地域包括支援センターの職員がいることで、安心して参加できたのではないかと思う。

私達が、グループホームとして、地域に根ざす施設として何が出来るのか？できること、出来ないことを考えることができた。入居者が地域住民として暮らすことで、商店街の活性化につながり、施設から情報を発信することで、地域のマンパワーの抽出、認知症の理解の促進が出来た。また、杉並区をはじめ、地域包括支援センターとのつながりを構築し、さまざまな角度で地域に関ることができた。一方で、食事会や、プランター作りのみのつながりが強かったこと、参加者の都合があわずに、少しずつ参加者が減っていき、本当の意味での交流が難しかった。そして、入居者の名前や顔は覚えたが、認知症である人との関わりは今後の課題として残っている。在宅で暮らす認知症の方は、まだたくさんいる中で、直接支えることが出来るのは、今入居している人だけかもしれないが、自分達が地域の中に溶け込んで、1人の地域住民として生きていくことで、少しでも地域を支えていけたらと考える。

モデル事業の取組み状況一覧

開催日	平成19年			平成20年			
	9月21日(金)	10月19日(金)	12月14日(金)	1月18日(金)	2月15日(金)	3月14日(金)	
参加者	地域住民 24名 入居者 15名 職員 10名 その他 5名 総数 54名	地域住民 18名 入居者 18名 職員 10名 その他 7名 総数 53名	地域住民 16名 入居者 16名 職員 10名 その他 6名 総数 48名	地域住民 15名 入居者 16名 職員 10名 その他 5名 総数 46名	地域住民 13名 入居者 16名 職員 12名 その他 2名 総数 43名	地域住民 7名 入居者 18名 職員 12名 その他 2名 総数 39名	
献立	きのこご飯・お味噌汁・魚のグリル・おろし合え・ほうれん草の磯和え	豚肉の野菜巻・さつまいもミルク煮・青菜のスープ・玉葱とトマトのサラダ	豆乳の中華スープ・もやしのカレー酢・豆腐の味噌グラタン・キャロットケーキ	鯖の味噌マヨネーズ焼き・白菜の柚子和え・卵とレタスのスープ・にんじんサラダ	豚肉のりんご包み焼き・里芋のごま風味煮・人参とらっきょうのサラダ・わかめと油揚げの味噌汁	洋風チラン寿司・菜の花の辛子和え・春キャベツの浅漬け・すまし汁	
費用	支出	食材費 ¥21,303 人件費 ¥52,000 その他 ¥184,338 計 ¥257,641	食費 ¥21,525 人件費 ¥52,000 その他 ¥9,272 計 ¥82,797	食費 ¥20,474 人件費 ¥48,000 その他 ¥0 計 ¥68,474	食費 ¥14,727 人件費 ¥52,000 その他 ¥0 計 ¥66,727	食費 ¥23,123 人件費 ¥52,000 その他 ¥0 計 ¥75,123	食費 ¥11,314 人件費 ¥52,000 その他 ¥0 計 ¥63,314
	収入	食費収入 ¥16,200	食費収入 ¥15,900	食費収入 ¥13,800	食費収入 ¥12,600	食費収入 ¥14,000	食費収入 ¥12,300
健康相談	講師	栄養士	保健師	栄養士	歯科衛生士	歯科衛生士	保健師
	内容	栄養について	風邪対策についての保健指導	栄養について	口腔ケアについて	口腔ケアについて	栄養について

会食会 (多楽福会)

<目的>
施設を直接見て、また職員や入居者との交流を通して地域住民の認知症への理解を促進する。

<概要>
毎月1回、グループホームに地域の方を招き会食会を開催する。同時に、保健師等や地域包括支援センター職員による相談を行う。
※会食終了後に入居者の方の前で行う健康相談では、認知症の講義ができないため、20年度は健康相談に代えて会食の前にボランティアに対する講義(サポーター研修会)を行った。

開催日	平成20年			
	6月6日(金)	7月4日(金)	8月1日(金)	9月5日(金)
講師	保健師	区の保健所職員	栄養士	歯科衛生士
内容	認知症について	食品衛生について	栄養について	口腔衛生について
参加者	サポーター 3名 行政職員 2名 GH職員 3名	サポーター 12名 行政職員 3名 GH職員 2名	サポーター 5名 行政職員 2名 GH職員 4名	サポーター 3名 行政職員 2名 GH職員 4名

開催日	平成20年						平成21年			
	4月18日(金)	6月13日(金)	7月18日(金)	8月15日(金)	9月19日(金)	11月14日(金)	12月19日(金)	1月16日(金)	2月20日(金)	3月13日(金)
参加者	地域住民 6名 入居者 18名 職員 11名 その他 0名 総数 35名	サポーター 7名 一般 8名 入居者 18名 職員 8名 その他 0名 総数 41名	サポーター 5名 一般 4名 入居者 17名 職員 9名 その他 2名 総数 37名	サポーター 4名 一般 5名 入居者 12名 職員 6名 その他 2名 総数 29名	サポーター 7名 一般 5名 入居者 18名 職員 6名 その他 2名 総数 38名	サポーター 7名 一般 0名 入居者 17名 職員 6名 その他 2名 総数 32名	サポーター 7名 一般 4名 入居者 18名 職員 7名 その他 1名 総数 37名	サポーター 5名 一般 3名 入居者 18名 職員 7名 その他 0名 総数 33名	サポーター 4名 一般 3名 入居者 18名 職員 7名 その他 0名 総数 32名	サポーター 6名 一般 4名 入居者 18名 職員 7名 その他 0名 総数 35名
メニュー	たけのこご飯・タケノコとふきの春寒煮・味噌汁・みかんゼリー	豚肉の野菜巻き・サツマイモのミルク煮・青菜のスープ・玉ねぎとトマトのサラダ	豚しゃぶ冷やし中華・里芋の煮物・青菜の中華スープ	夏野菜カレー・ラッシー・スイカ	キノコの炊き込みご飯・大根味噌汁・肉じゃが・梨	鯖の味噌煮・豚汁・小松菜の辛し和え・りんご	鳥の照り焼き・シチュー・ロールパン・ロールケーキ	おじゃ・かぼちゃのそぼろあんかけ・はすのキンピラ・ミカン	チラン寿司・豚しゃぶ鍋・イチゴ	あんぱん・ロールキャベツ・野菜スープ・菜の花のからし和え
費用	支出	食材費 ¥12,246 人件費 ¥49,860 計 ¥62,106	食材費 ¥23,792 人件費 ¥49,860 計 ¥73,652	食材費 ¥19,950 人件費 ¥49,860 計 ¥69,810	食材費 ¥8,316 人件費 ¥49,860 計 ¥58,176	食材費 ¥16,546 人件費 ¥49,860 計 ¥66,406	食材費 ¥10,868 人件費 ¥49,860 計 ¥60,728	食材費 ¥19,530 人件費 ¥49,860 計 ¥69,390	食材費 ¥7,464 人件費 ¥49,860 計 ¥57,324	食材費 ¥20,174 人件費 ¥49,860 計 ¥70,034
	収入	食費収入 ¥14,000	食費収入 ¥16,000	食費収入 ¥14,000	食費収入 ¥10,400	食費収入 ¥14,400	食費収入 ¥10,800	食費収入 ¥12,800	食費収入 ¥12,000	食費収入 ¥10,800

※20年度からは、食事作りを担うボランティア(サポーター)に参加いただき、職員は一般参加者と入居者の橋渡しに専念

地域交流 (手作りプランターの設置)

<目的>
GH入居者・施設利用者・職員・住民の相互協力と交流により、施設と街との顔なじみの関係を構築する。

<概要>
施設の入居者・利用者と地域住民の相互協力により、近隣の通路や公園等へ手作りプランターを設置する。

※プランターは、近隣の店舗、施設等から収集したペットボトルを半分に切断し、近所の幼稚園・保育園にて園児に色付けをしてもらい作成した。

実施日	平成19年		平成20年	
	11月11日(日)	5月18日(日)	10月19日(日)	
参加者	地域住民 9名 入居者 28名 入居家族 4名 学生 10名 職員 11名 総数 62名	地域住民 18名 入居者 18名 入居家族 8名 学生 12名 職員 12名 総数 68名	地域住民 20名 入居者 10名 入居家族 6名 学生 9名 職員 8名 総数 53名	
作業内容	入居者と学生と職員と一緒に近隣のお宅を訪問しながら、プランターを配布。	入居者と学生と職員と一緒に近隣のお宅を訪問しながら、プランターを配布。	参加者が協働して、なごみの中庭に花壇を作り、近所の園児が作った看板を記念碑として設置。	
プランター作成数	200個	300個	150個	
費用	材料費 ¥58,142 人件費 ¥44,000 計 ¥102,142	材料費 ¥97,362 人件費 ¥49,860 計 ¥147,222	材料費 ¥214,240 人件費 ¥49,860 計 ¥264,100	
備考			花壇の設置にあたり、近所の花屋さんにご指導いただいた。	